

# 南部小学校の「子育て講座」

平成22年2月18日  
15:30 図書室

進行：佐藤母親委員

1 開会のあいさつ 西田母親委員

2 校長あいさつ（講師紹介含む）

3 講演（演習も含む）  
演題 「子どもの見方・親の接し方」  
講師 山形大学教職研究総合センター 松崎 学 氏

4 感想

5 お礼の言葉 秋葉母親委員長

6 閉会のあいさつ 戸田母親委員



## 「子どもの見方・親の接し方」

山形大学地域教育文化学部附属教職研究総合センター 松崎 学

### 1. 演習：自分の子育ての“クセ”を知る

#### (1) 子育て自己診断チェックリストの記入

- ・質問項目に対する自分の思いに合うところに○をつける
- ・すべての項目に

#### (2) 集計

- ・各質問項目の尺度得点を、表に記入する。
- ・A-Eの、それぞれの合計得点を計算する。

#### (3) 図示

- ・それぞれの得点を図中に記す。

#### (4) その説明

資料をもとに

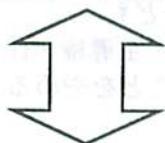
演習を通して気づいたことは？

### 2. そのような親(A・B・C・D)の行動の背景にあるもの（悪循環の構図）

そういう親に悪気はない（“良かれ”と思って）が、

- ・子どものためには何でもしてやらなければならないと信じている。
- ・その結果、子どもが何をどうしているか目を光らせ、子どもが困ることにならないように次から次へと先取りして指示・命令などによってお節介を焼く。
- ・子どもの行動の責任はすべて自分にあると信じている。子どもの言動は、自分の親としての能力を反映していると信じ込んでいる。
- ・世間体にこだわるあまり、子どもの責任を自分で引き受ける。
- ・目標をあまりに高く設定して達成を要求する。（“いい親”）

子どものから、自信と自立心・やる気を奪うことに。



社会背景  
・親に対する誤った期待  
・過ちにこだわりすぎる社会

### 3. 子どもを尊重するということ (STEP では“責任感ある親”へ)

#### (1) 責任感と協調性のある子どもを育てるこことに対して責任感ある親になるために

- ・子どもに哀れみをかけ、かばうことで、失敗経験に出会わせてもらえない状況を断つ。
- ・やさしく、かつ、毅然と、子どもに経験させて、そこから自分で責任をとることを学ばせることを選択する。
- ・子どもを自分と同じ一人の人間として扱おうと決断し、失敗経験からよりよい行動を学び取ることのできる力をもっていると、子どもの力を信じる。

例1. リビングのテーブルで勉強していた子どもがコップをひっくり返してしまうと、……  
<“いい親”的対応>

<“責任感ある親”的対応>

例2. 幼稚園バスに乗り遅れた年中児に……

<“責任感ある親”的対応>

例3. 「毎朝、起きたくない自分で起きることができない子なんです」というお母さんの相談に  
対して……  
(悪循環を整理すると)

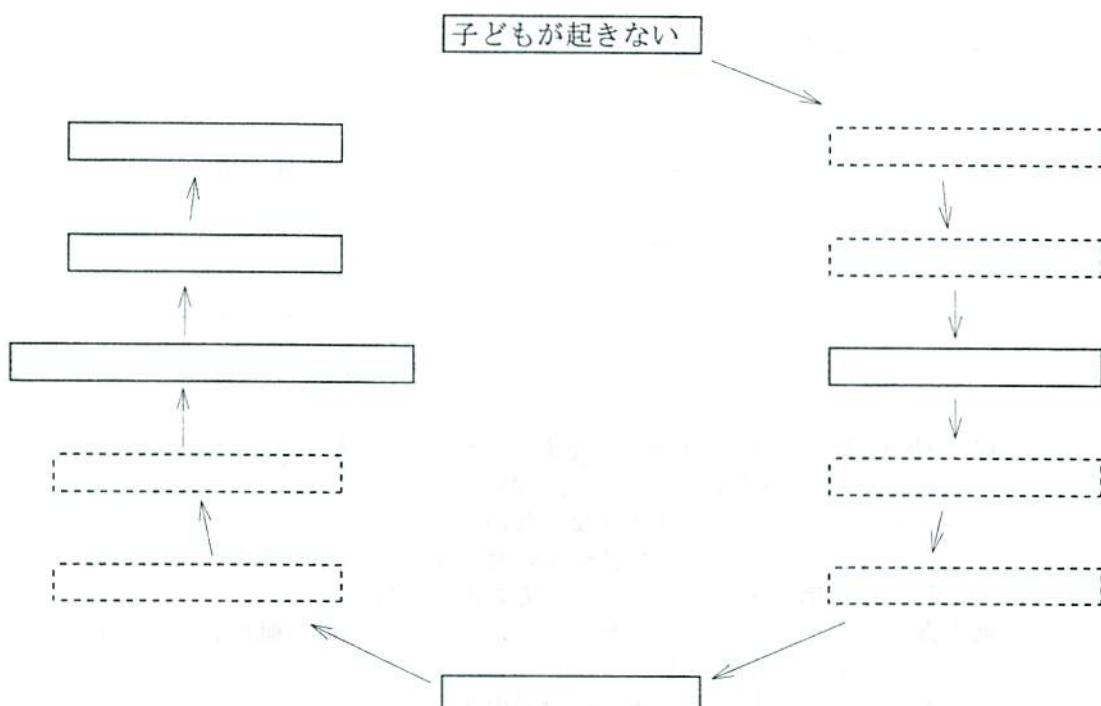


図1. 毎朝繰り返されていたかもしれない悪循環

解決に向けて…

- ① “誰にとっての問題か” (親・子ども)
- ② 子どもの“好ましくない言動”的目標は? 関心・主導権・仕返し・無気力
- ③ 一つの解決策: 問題を子どもに返す／親が引き受けることをやめるという決断をする
- ④ あらためて、子どもの能力を信頼する
- ⑤ 解決への模索を子どもに委ねる

子どもの問題行動を捉える際の二つの視点……悪循環に突入しない整理のために

(2)子どもの“好ましくない言動”の目標に注目する

- どちらかと言えば、繰り返し見られるちょっと困った行動は、すでに別の目標を獲得している、と考える。
- 好ましくない言動の目標を強化することなく、かつ、適切な言動に注目し、勇気づける。

(3)“誰にとっての問題か”を明確にして、“子どもの問題”に踏み込まない

パターン1：子どもは自分の意志で自由に行動している。その行動によって誰かが権利を侵害されたりする

ことはなく、特にその子も困っていない。➡問題なし

パターン2：子どもは自分の意志で自由に行動している。その行動によってその子自身が困った状態に陥っている。➡子どもの問題

パターン3：子どもは自分の意志で自由に行動している。その行動によって子ども自身は何ら問題はないが、親の権利が侵害されている。➡親の問題



悪循環のスタートは、それぞれの問題を互いに混同してしまっていることも。

- 子どもにとっては、自分の問題を大人が取り上げいろいろとしてもらうことによって、自分の問題として引き受ける機会も奪われている。その結果、“指示待ち症候群”へ。

例、忘れ物をした子どもに……

表1.“誰にとっての問題か”

		子ども なし	あり
親	なし	問題なし	子どもの問題
	あり	親の問題	

問題行動（親にとっての問題）へのアプローチ

(4)注意したり叱ったりするのではなく、“I-メッセージ”か“選択の余地”を与える

I-メッセージによって、相手とのよりよい解決をもたらすことのできる人間関係づくりを！

I-メッセージの組み立て

- 自分にとって迷惑な言動が何であるかを客観的に述べる。例、「あなたが……するとき、」
- その言動の結果について、自分が感じていることを述べる。例、「先生は困るんだよ。」
- その理由を述べる。例、「だって、……」

\*話し方や声の調子は、あたたかく！怒りなどを込めてしまうと、You-メッセージに。

留意点

- ①毅然として、かつ、心あたたかく！
- ②人と行動を区別する
- ③最後まで一貫して子ども自身の行動の選択権は子どもに委ねることで、自己責任能力を育てる
- ④“I-メッセージ”も多用すると、子どもが耳を貸さなくなったり、そのような行動によって“関心を引く”という、好ましくない言動を目指を強化することに
- ⑤建設的な言動への勇気づけも忘れずに

表2. 罰と論理的な結末との違い（チュウ, 2004 より改編）

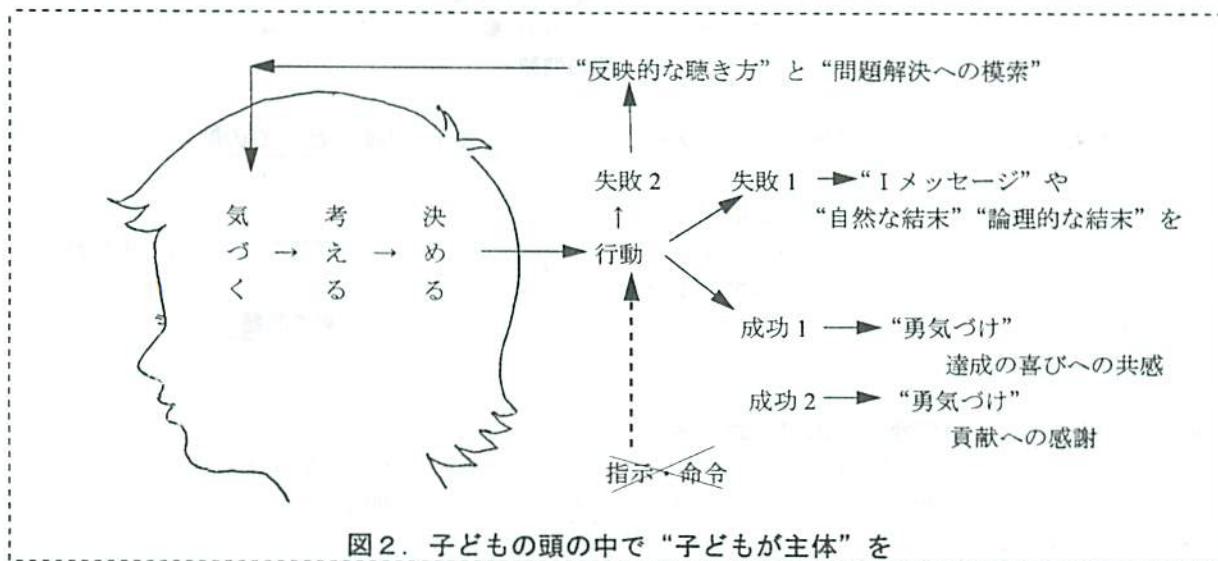
その特徴	罰 子どもに育つもの	論理的な結末 子どもに育つもの
力の重要視、個人的な権威を要求する	反抗する、ピクピクする、無責任になる、復讐心を示す	お互いの尊厳と権利を認め る
専横的・論理性がない	怒りっぽくなる、怖がる、混乱	行動への直接的なかかわり
道徳的判断	反抗する、復讐心に燃える やましい、心が傷つく	道徳的判断をしない、行為と行為者を区別する 自分を信じる
過去の行動に关心がある	自信がもてない、物事を決められない	現在と未来が重要 自己管理し、自己評価する
子どもを尊敬しないで扱う	怖がる、反抗する、やましい、復讐心に燃える	親しみのある、穏やかなやり方で依頼する
服従を強要する	反抗する、どんどん傲慢になる	選択を容認する

## 子ども自身が問題に苦戦しているとき（子どもの問題）

### （5）子どもの問題を取り上げて教えることなく、子ども自身の問題解決を支援する方法

- “反映的な聴き方”と“問題解決への模索”（親学習プログラム STEP）の流れ

- ①“反映的な聴き方”をして、子どもに自分の気持ちをはっきり認識させる。
- ②子どもとブレーン・ストーミングをして、さまざまな解決策を考えられるようにする。
- ③考えついた方法の可能性を子どもがいろいろ検討できるようにして、その中から選択させる。
- ④選択した解決策を実際に実行したときにどんなことが起こるかを話し合う。
- ⑤実際に実行に移すような決断ができるように勇気づけ、親子間で約束する。
- ⑥後日、うまくいっているかどうか、親子で話し合う日時を決める



演習：別紙を使ってロールプレイを行い、親からこのような対応を受けたときの子どもがどう感じるか（自分に対して & 親に対して）味わってみよう。

（自分に対して）

（親に対して）

## 子どもが建設的な言動を示したとき

### （6）“ほめる”のではなく、“勇気づけ”を！

“勇気づけ”（親学習プログラムSTEP: Systematic Training for Effective Parenting）を通して

勇気づけの例：自分で何かをうまくできたと喜んでいる子どもに、「自分でうまくやることができてとてもうれしそうだね」と達成の喜びに共感する。⇒ 自分自身の達成そのものがうれしいので、次回への意欲につながる。

例2：片づけなど手伝ってくれた子どもに、「手伝ってくれてありがとう。おかげでとても助かったよ」と貢献への感謝を伝える。

例3：「ボクが悪いことをするのは、先生がボクをちゃんと叱らないからだ」という子どもに……（子どもの能力への信頼）



勇気づけの基本原則：子どもにとって、身近な大人が自分の力を信じてくれて、自分で自分の力を信じができるとき、持てている力を発揮することができる。

表3.“ほめる”ことと“勇気づけ”的違い（柳平, 1998）

	ほめる	勇気づけ
対象考え方	できる子ども ・親の価値判断を押しつける ・一種のほうびとして勝った者、一番よい者に与えられる	できる子どももできない子どももだれでも ・子どものありのままを評価し受け入れる ・どれだけ努力し、どれだけ進歩したかを認める
競争原理のタイプ	対他競争(他人との競争)	対自競争(自分の中でよりよくなろうとする)
感情その結果	親の感情を伝える 周りの評価を気にする自主性のない子	子どもの感情を認める 自分でやる気を起こす自立心のある子

所属感を育てるために…

- (7)集団討議における問題解決への支援  
例. チャレンジ・キャンプでの自由献立で……

## 5. おわりに

### (1)アドラー心理学における教育と子育ての目標

#### 行動面の目標

- ①自立する
- ②社会と調和して生きる

「行動は信念から出てくる」と考へるので、適切な信念を育てることを重視する。

||  
ライフスタイル：自己や世界についての意味づけの総体

\*適切な信念を育てることのできる教育と子育ての方法を、注意して選択しなければならない。

### (2)親・教師－子ども間関係の民主化の課題

- ・21世紀を生きる子どもは、今以上に相手をも自分をも尊重して生きる真に民主的な生き方を学ぶ必要がある。それを子ども時代に体験させるのが、我々大人の責任だと考える。
- ・教育と子育てにおいて、アドラー心理学ないしはSTEPを勧める理由(岡野, 2004)
  - ①かつての絶対的権威をもとにした教育方法が、やや行きすぎたところもある民主主義(人に迷惑さえかけなければ、自分の好きなことをしていい)で育った現代の子どもたちには、効果がないということ。
  - ②日本社会全体としては、欧米型の「自由と責任」をしっかりと教えるような民主主義はまだまったく未成熟であるため。

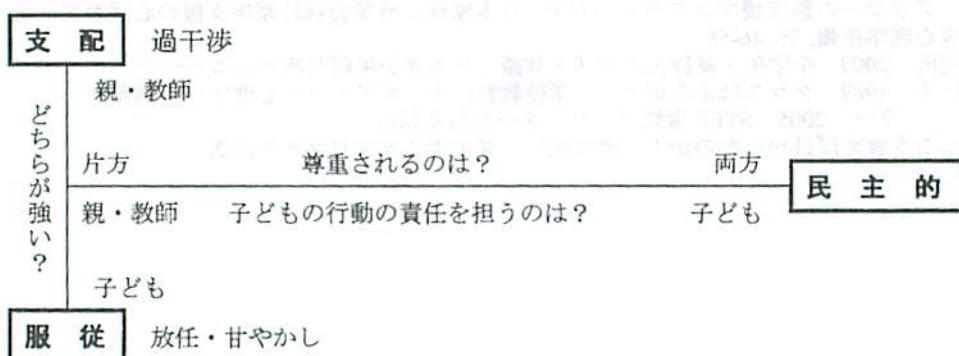
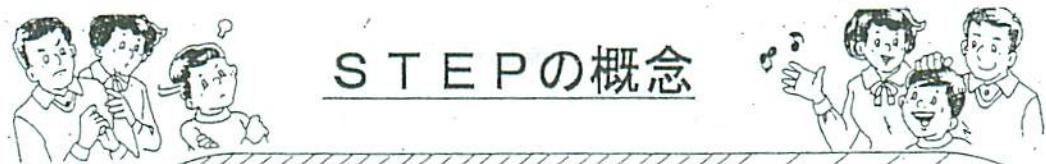
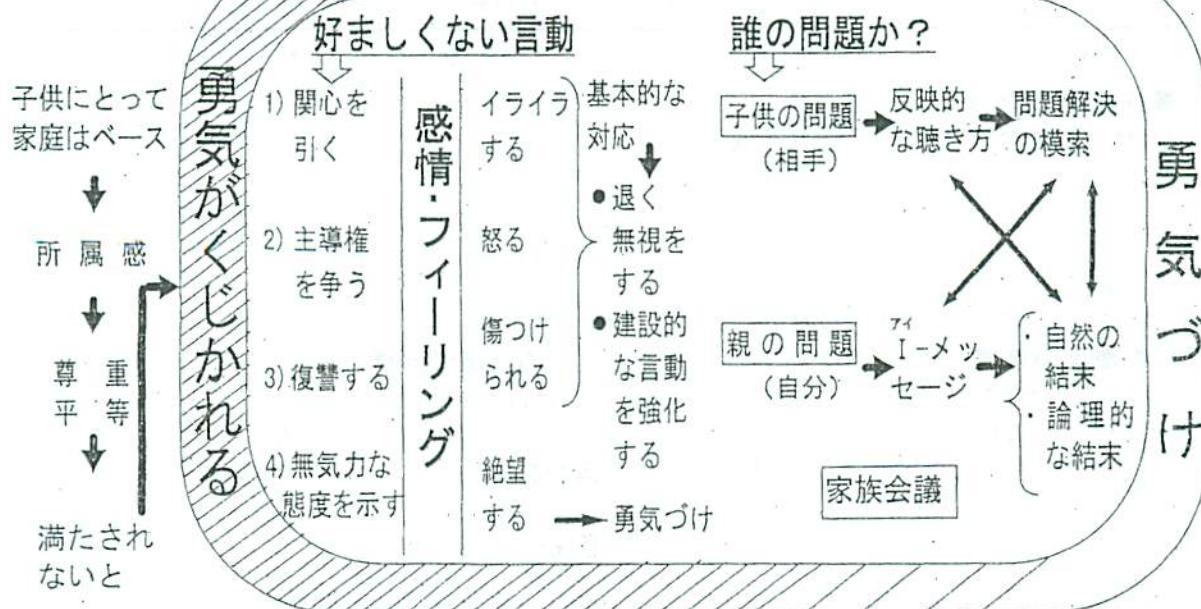


図3. 支配・服従と民主的な関係の位置づけ



## STEPの概念



STEP(Systematic Training for Effective Parenting の略)

©2005 STEP 勇気づけセンター

図4. STEP概念図 (STEP勇気づけセンター, 2005)

### 引用文献

- Chew, A. L. 1998 *A Primer on Adlerian Psychology: Behavior Management Techniques for Young Children*. A Humanities Publication. (岡野守也(訳) 2004 アドラー心理学への招待 金子書房)
- Dinkmeyer, D. & McKay, G. D. 1976 *Systematic Training for Effective Parenting: Parent's Handbook*. American Guidance Service. (柳平彬(訳) 1982 子どもを伸ばす勇気づけセミナーSTEPハンドブック1・2 発心社)
- 河村茂雄 1999 学級崩壊に学ぶ—崩壊のメカニズムを絶つ教師の知識と技術— 誠信書房
- 岸見一郎 1999 アドラー心理学入門 KKベストセラーズ
- 松崎学 2004 アドラー心理学 NPO日本教育カウンセラー協会(編)教育カウンセラー標準テキスト(中級編) 図書文化社, 61-68.
- 松崎学 2007 アドラーの親支援プログラム STEP 日本家族心理学会(編)家族支援の心理教育—その考え方と方法— 家族心理学年報, 25, 46-58.
- 日本青少年研究所 2009 中学生・高校生の生活と意識 日本青少年研究所ホームページ
- 野田俊作・萩昌子 1989 クラスはよみがえる—学校教育に生かすアドラー心理学— 創元社
- STEP 勇気づけセンター 2005 STEP 勇気づけセンターからの私信
- 柳平彬 2008 こう言えば良かったのか! (改訂版) ダイナミックセラーズ出版

(資料2)

ロールプレイ：太郎くんへのお母さんの支援



① 反映的な聴き方をして、  
子どもに自分の気持ちを  
はっきり認識させる

② 子どもがブレーンストーミング  
をして、さまざまな解決策  
を考える

③ 考え方の方法の可能性を  
子どもがいろいろ検討できる  
ようにして、色々なうがいを  
選べるようにする

④ 子どもが一つの解決策を選ん  
だら、実行したときにはじんぐ  
ことが起きるかを話し合う

⑤ 子どもが決断するように  
励まし、親子のあいだを  
約束する

⑥ あとで、うまくいっているの  
どうの親子でもう一度話し  
合う日と時間を決める

——太郎くん親子の場合——

ドアをばたんとさせて、太郎君がかんかんに怒って帰宅しました。

太郎 もう絶対に昭一と遊ばないッ！ あんなヤツ、大嫌いだ。

母親 昭一君のこと、本気で怒っているようね。

太郎 当たり前さ。ぼくが一緒に遊ぼうとするとき、いつもけんかを吹っかけてくるんだもん。（泣きべそになつて）ほかのみんなが昭一のこと好きだから、みんな言うこときくから、昭一と遊ばないと誰とも遊べなくなっちゃうんだ……。

母親 仲間はずれになるから淋しいのね。

太郎 うん。

母親 どうしたらいいかしらね。お母さんと一緒に考えてみようか？

太郎 （泣き止んで）どんなこと？

母親 太郎はどうしたいの？

太郎 昭一とけんかなんかしたくない。

母親 じゃあ、けんかをしないようにするには、どうしたらいいのかしら。

太郎 わかんない。

母親 そうね、わからないかもしないわね。でも、太郎にできること、なにかないかなあ。

太郎 いくら考えても、ほかにはもうないよ。

母親 それじゃ、その二つのうち、太郎はどちらがいいと思うの？

太郎 あとのほうがいいと思うんだけど、ぼく。

母親 けんかを吹っかけないようにさせる方法ね。なぜ、そっちのほうがいいのかしら。

太郎 だって、昭一だけじゃなくて、ほかのみんなともっと遊びたいんだもん。

母親 わかったわ。じゃ、昭一君が、もしもまたけんかを吹っかけてきたら、太郎はどうなふうにできるのかな？

太郎 やりかえすとめだから、そうだな、知らん顔して相手にしない。

母親 それ以外の方法は？

太郎 ないよ。それだけさ。

母親 もし、知らん顔してたら、どうなるかしら。

太郎 あいつ、きっとぼくをしつっこく追いかけてくるね。いやがらせしてさ。

母親 そしたら、どうするの？

太郎 やっぱり知らん顔してるよ。意地でも相手になつてやらない。

母親 さてさて、その先はどうなるかしらね。

太郎 あいつだって、あきちゃつて、あきらめると思うんだけど。

母親 あなた、ほんとうにやってみるつもりなの？

太郎 うん、本気だよ。

母親 そう。ほんとうにやろうと思うんだつたら、どうかな、一回だけじゃなくて、三日間ほど試してみたら。三日間たつたら、どんな具合かまた話し合つてみなさい？